

平成25年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	信州大学自然科学館を拠点とする理数科教員・学芸員養成支援
実施組織 (または対象のカリキュラム)	理学部
実施責任者(所属)	太田 哲 (理学部化学科)
取組の目標	教職および学芸員養成課程の受講生がそれぞれの課程の講義で学んだ内容を実践する場として「信州大学自然科学館」を活用し、ここの活動（一般公開、展示企画、資料整理）を通じて、自然科学に関する幅広い知識と経験を身につけ、教育実習や博物館実習に橋渡しすることをねらいとした。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 教職科目「理科指導法演習Ⅰ・Ⅱ」の実施 理学部公開イベント「自然のちから」（8月3,4日開催）でのブース出展を自然科学館にて実施し、来訪者に実験指導や展示解説を行った（銀嶺祭では会場の関係上、理学部棟で実施）。科学館の展示品の解説、科学模型製作、顕微鏡観察、化学実験など、前後期各8ブースを出展した。成果報告会と事後指導を、8月6日（同演習Ⅰ）と12月10日（同演習Ⅱ）に実施した。 2. 博物館専門科目「博物館実習Ⅰ」の実施 「自然のちから」への出展に向けて自然科学館の展示品の解説パネルの作成を行い、当日は来訪者への説明を行った。 3. 自然科学館ホームページの作成、資料整理 学芸員養成課程の履修生を中心に、同館ホームページに掲載する収藏品リストの作成および各種資料のデータベース化を行い、科学館の運営に携わった。 4. 自然科学館の物品整備 収集・整理した標本や展示品を収蔵するための標本棚とショーケース、およびデータベース作成用スキャナーを購入した。
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	受講生は、実際に来訪者と対面して話すことで、内容を初学者にわかりやすく正確に伝え、疑問・質問にも的確に答えることの重要性を学ぶことができた。特に後期の理科指導法演習Ⅱでは、前期での経験を踏まえて出展内容や説明の仕方を工夫するなどの改善が認められた。また、後日報告会と教職教育部教員による事後指導を行い、ブース出展で得た成果や反省点を受講者全員で共有することで同演習をより有意義なものとした。本取り組みを通して得た知識と経験は、4年次に行われる教育実習や博物館実習に生かされるものと期待できる。 一方、実施にあたっては、同館が理学部棟から離れているため、準備において多少不便があったり、イベント期間中の客足が少ないなどの課題もあった。今後は、こうした課題の改善策を検討しつつ、教職・学芸員養成課程の授業において信州大学自然科学館のさらなる活用を図りたい。